

コロナワクチンは大丈夫？

長い間、このコーナーの更新をお休みしていましたが、今年から再開することにしました。これからはなるべく毎月一回の更新に努めたいと思います。人の医療でも動物の医療でも身体に負担を与えない自然な療法が益々注目されています。特にコロナ禍にあって無謀なワクチンのブースターショットが全国的に展開され、多くの被害者や死者が出ていることは見過ごしにはできません。

昨年12月、厚生省の新型コロナウイルス感染症対策分科会の会長である尾身茂氏が新型コロナウイルスに感染したことが報道されました。尾身会長は12月10日から軽い倦怠感があり、12日にPCR検査を受けたところ陽性と判明したのです。尾身会長は11月12日にオミクロン対応ワクチンで5回目の接種を受けています。

この報道を見て、皆さんは疑問に思いませんか。この2年足らずの期間に5回もの接種をしてコロナに対する抗体ができなかったのでしょうか。しかも、最後のワクチンから1か月もしないうちに感染したということは、このワクチンは1か月しか効果がないか、または全く効果が無いということでしょう。こんなものをワクチンと呼べるのでしょうか。

同じワクチンを何度も繰り返し打つと免疫が破壊されることが知られています。一つの抗原を繰り返し与えられると、人の免疫システムが訓練され、一つのことに集中してその抗原にのみ反応するようになり、他のウイルスや細菌に対して抗体を作ることをやめてしまい、結果として免疫系は破壊されます。この現象は「抗原原罪」と呼ばれています。

東京理科大学名誉教授で薬学博士の村上康文氏は「同一の抗原で繰り返し免疫化を行った場合、動物実験では5回目から死亡する例が増加、7~8回繰り返すと半分近くが死亡するという動物での研究結果もある」と強い懸念を示しています。

また大阪大学の荒瀬尚教授は一昨年2月、新型コロナウイルスの感染力を2倍から3倍強める「感染増強抗体」(ADE)を世界で初めて発見したと発表しました。コロナに感染すると2種類の抗体が作られます。ひとつはウイルスに抵抗する中和抗体とウイルスの感染を助長する感染増強抗体(ADE)というものです。感染増強抗体は中和抗体の働きを阻害するので、かえってコロナウイルスに感染する危険性が増加します。特にコロナの重症患者では感染増強抗体の高い生産が認められました。感染増強抗体は自然感染の時よりもワクチンを打った時の方が大量に作られます。つまりワクチンを打てば打つほどコロナにかかりやすくなるのです。

わが国では国民の8割が2回目と3回目のワクチンを済ませています。しかし、コロナの第7波は連日25万人以上の感染者を出し、一時は世界でもトップレベルの数字となったことは記憶に新しいところです。多くの国民がワクチンを打った国ほど感染は増えるのです。ハイチという国は貧しいためワクチンが買えません。しかし、コロナは収束しました。アフリカの多くの国でもワクチンを打たずに収束に向かっています。コロナはオミク

ロン株になってからは重症者が激減しています。ほとんどの感染者は症状が出ていません。ワクチンを打っても抗体が上がるのはほんの2~3か月です。それを期待してワクチンを選び自分の免疫を破壊していきますか。それとも自分の免疫を大切に、このままワクチンを打たずに、収束を待ちますか。一年間待てば免疫は回復します。しかし、ワクチンを打ち続ければどうなるかわかりません。

福岡動物自然療法研究会会長 名越譲治